エコ発する事業評価委員会　議事録

日時：平成 27 年 5 月 19 日（火）　13：30～16：40
場所：福岡市役所本庁舎 15Ｆ　1505 会議室
出席者：エコ発する事業評価委員会６名〔松藤会長，糸山委員，久留委員，原田委員，松岡委員，薛委員〕
　　発表団体　６団体，９名
　　事務局　　５名
　　計　　２０名

◆各団体事業計画発表（1 団体 15 分：発表５分，質疑応答５分）

（以下，質疑応答内容）

１．特定非営利活動法人　循環生活研究所

Q：収支計画で交通費と印刷費が大きい。実施する内容はわかったが，成果をどのように判断するのか。
A：アンケートをとる。また，マニュアルを配布することで周知を図る。配布先としては，市の関連施設に配布させていただきたいと考えている。
Q：市の関連施設への配布で効果があるのか。
A：過去のエコ発する事業実施団体からの聞き取りでは効果が高いと聞いている。
Q:以前,情報不足と言っていたかと思うが,他のボランティア団体との連携はとれているか。
A：心掛けている。本日市役所 1 階で開催されている「生きものと私たちのくらし展」にも参加する。
Q：成果物となるマニュアルは，誰が活用するようことを想定しているのか。
A：ボランティア実施者が手元に持って使うためのテキストをイメージしている。
Q：対象はボランティア初心者なのか。
A：メインは初心者。
Q：マニュアルの効果はどのように確認するのか。アンケートの実施を考えているのか。
A：マニュアル活用前後にアンケート調査し，理解度を確認するよう考えている。
Q：マニュアルに「環境」という観点は入れているか。
A：循環生活研究所の記載内容には生ごみコンポストの取組みなどを入れるが，入れすぎると他団体に使えないものになってしまうので，各分野の団体が自分たちにあった記載ができるように空白箇所をいれておき，様々な分野で使えるものにしたい。
Q：空白以外の部分には何を記載するのか。
A：なぜ環境ボランティアをしなければならないかなどについて記載する。

２．特定非営利活動法人　はかた夢松原の会

Q：花を媒体とした放置自転車解消の取組みと理解しているが，花と放置自転車のどちらがメインか。
A：花が半分，放置自転車が半分。
Q：PR はしているのか。

Ａ：今年度はPRに力を入れる。
Q：良い取組みなので，４，５年目に繋がるような工夫を考えていただきたい。
Ａ：プランター設置の周辺店舗への広がりが見えてきたので，今後，更なる工夫を考えていきたい。
Q：補助事業が終了した後も持続可能な取組みとしていくためのアイデアはあるか。
A：プランター設置の周辺店舗に花代を寄付してもらえるように働きかけたい。
Q：プランターと土を購入するのではなく，コンポストを活用することで，持続可能な取組みとなるのではないか。
A：コンポストは昨年度検討したが，国交省との協議の結果，設置場所が郊外しか認めてもらえず効果が薄いと判断した。今年度，改めて検討してみたい。

３．特定非営利活動法人　緑のキャラバン隊

Q：拠点を増やす姿勢が見られる。
Ａ：緑のコーディネーターは100人以上いるが，活動場所がなく辞めている人もいる。拠点を増やすことが重要と考えている。
Q：目的は腐葉土づくりと花の育成どちらか。
Ａ：環境美化が目的。腐葉土づくりは費用削減の手段だが，腐葉土の原料は公園や病院の落葉でごみ減量の効果もある。
Q：普及のための冊子やマニュアルはあるのか。
Ａ：マニュアルはないが，説明は実施している。
Q：腐葉土が手に入らない団体との連携は可能か。
Ａ:福岡市内でグリーンベルトを形成したいと考えているので，連携できるよう検討したい。
Q：3月の発表会の後，他団体からコンタクトはあったか。
Ａ：活動状況に関する問い合わせがあった。エコ鉢に興味を持つ団体が多かった。
Q：公園など面積がない場所でのやり方についてのノウハウをまとめてもらうと良い。
Ａ：間隔など重要なポイントがあるので，ノウハウをまとめてPRしたい。環境フェスティバルにも参加したい。

４．ふくおかFUN

Q：教育委員会との連携はどのようにしているのか。
Ａ：北崎小学校の校長と連携した取組みを行った。今，東区にも広がりつつある。
Q：ビーチのごみ拾いが目的か。
Ａ：単にビーチのごみ拾いをするのではなく，子ども自身が海の現状を見ることで，ごみ拾いの必要性を感じてもらうことが目的である。
Q：教育委員会の支援はあるのか。
Ａ：ない。
Q：取組内容には賛成である。保険加入してはどうか。
Ａ：保険対応できる体制である。計画書に明記する必要があれば対応する。
Q：設立はいつか。

Ａ：昨年 12 月。

Q：備品が経費の大部分を占めているが，シュノーケリングで行ける場所で事業目的を達成できるのか。

Ａ：十分な事前調査を行い，体験場所を選定するので事業目的を達成できる。

Q：初年度なので備品代が多くなっていると思うが，2，3 年目はどのように見込んでいるのか。

Ａ：2，3 年目はかなり削減できる。

Q：2，3 年目の計画が記載されていないのは何故か。

Ａ：まだ計画が定まっていないので記載していない。

Q：1 回当りのスタッフは何人を想定しているのか。

Ａ：エリアと参加する子供の人数による。子供たちは慣れてくると沖に出ようとするので，子ども達が沖に出ないよう活動エリアの沖側海面上にスタッフを配置する必要がある。

Q：この取組みはボランティアなのか。

Ａ：そのとおり。

Q：事前の教育はどうするのか。

Ａ：海の写真を並べて，まず子ども達に見てもらい，海に興味を持ってもらう。そして，子ども達が興味を持った写真の海が目の前の福岡の海であることを知ってもらい，その後，よく見るとごみがあるという現状について気付かせる。

Q：対象年齢は何歳からになるのか。

Ａ：今回の事業では小学生を対象とする。

Q：備品の保管場所はあるのか。

Ａ：倉庫がある。

５．ＢＲＩＤＧＥ

Q：今回の取組みは継続的に続けていけるのか。

Ａ：九州大学生物学科の先輩後輩のネットワークを活用しているので継続的に続けていける。

Q：対応できる人数は何人くらいか。30 名くらいでも対応できるのか。

Ａ：10～20 名が望ましいと考えているが，参加人数に合わせて場所やスタッフを決定することで対応する。過去の実績では保護者を含めて 25 名が最大。

Q：PR はどのようにするのか。

Ａ：福岡市の広報を活用させていただきたい。

Q：昨年度の反省点はあるか。

Ａ：福岡市環境局のサポートで市に広報を依頼したところ，想定以上の参加があり，対応に苦慮したことから，参加者が多い際にも対応できるような配慮を検討したい。また，フィールド調査と調べ学習を 2 本立てにした際，子ども達が疲れてしまったので，配分も見直したい。

Q：リーダー的な人が卒業して取組みが縮小されないか心配である。継続した取組みとなるように，卒業生への協力や他大学との連携は考えているか。

Ａ：一部の学生が卒業することで取組みが縮小されることがないよう，メンバー間で勉強会を開くことで知識の共有化を図っている。今後は生物学科の１～３年生にも働きかけたい。

Ｑ：卒業生が手伝いに来てくれるネットワークづくりも検討するとよい。
Ｑ：他にも専門性を活かし，子ども達の学びに取り組んでいる活動はあるか。
Ａ：サイエンスカフェや化学実験をしている団体があったかと思う。

６．九州産業大学都市デザインゼミナール

Ｑ：7 月の第 1 回環境学習実践は広報済なのか。
Ａ：今後，大学を通して広報予定。
Ｑ：どのくらいの風で光るのか。
Ａ：LED を用いるので，少しの風でも光る。
Ｑ：羽根の素材は何か。
Ａ：防水紙を使うことを想定している。
Ｑ：耐用年数はどのくらいか。
Ａ：モーターが４～５年程度と言われているが，交換可能である。羽根も交換可能。
Ｑ：環境負荷低減やエネルギーについての啓発にはどれくらいの効果があると考えているか。
Ａ：電力消費者である市民一人ひとりが，普段の生活で使用する電気がどうやってつくられているかを学ぶことで省エネの啓蒙になると考えている。
Ｑ：概念ではなく，定量的な評価は出せないのか。
Ａ：今年度の取組み以降も貸出することで省エネの啓蒙活動を２～３年継続したい。
Ｑ：２～３年継続するのであれば，作ったものを２，３年目にどのように活用するのかを計画書に記載してもらいたい。
Ａ：２，３年目は経費がかからないので，計画書には記載せず，補助申請も予定していないが，環境教育は実施する。
Ｑ：風車は全て同じものか。
Ａ：今のところ，300 個全て同じもので予定しているが，今後，詳細に検討する。
Ｑ：スプリングの役割は何か。
Ａ：風車が風の方向を向くためのもの。
Ｑ：持ち運びできるのか。
Ａ：折りたためるので持ち運び可能である。
Ｑ：様々な取組みをしているが，アイデアは誰が出しているのか。
Ａ：基本的に学生のアイデア。
Ｑ：効果を数値化できるとよい。
Ａ：電力量などであれば出せると思う。
Ｑ：発電量は何ワットか。
Ａ：まだ計測していないので正確な数値は示せないが，今回の取組みでは発電がメインでなく，風の強さによって，LED 照明が“ゆらぎ”を持つことで見る人に親しみを感じてもらいたい。

◆委員による評価

（以下，福岡市情報公開条例第７条第２号及び第４号により非公開）